

2020年1月の行事予定表

1	水	元旦礼拝式(午前11時)	16	木	祈祷会
2	木	2, 3日の集会は休みます。	17	金	朝の祈り会
3	金		18	土	
4	土	総員礼拝式(聖餐式)、昼食は餅ピザ	19	日	礼拝式、各会の例会日
5	日		20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	聖書の学びと祈り会
8	水	聖書の学びと祈り会	23	木	祈祷会
9	木	祈祷会	24	金	朝の祈り会
10	金	朝の祈り会	25	土	
11	土		26	日	礼拝式、各部会
12	日	礼拝式、教会役員会、奉仕の日	27	月	
13	月	地区牧師会、地区協議会(当教会)	28	火	
14	火	教団・財政健全化プロジェクト	29	水	聖書の学びと祈り会
15	水	聖書の学びと祈り会	30	木	祈祷会
			31	金	朝の祈り会

1月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 今月は昨年のクリスマス特集となりました。少しでも雰囲気を感じていただけたでしょうか？
- ◇ クリスマスはイエス様が私たちのところに来て下さった日と感謝して過ごしていました。その中で小さき者と共におられるために来られたことを深く考える時にもなりました。イエス様に会うために尋ねるあなたにとっての「小さき者」は誰でしょう？

教会月報 2020年1月

No.344

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

希望の源

「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたはこの世では悩みがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」

新約聖書・ヨハネ福音書16章33節

あけましておめでとうございます！

本年も主にあって宜しくお願い申し上げます。

「門松や、冥土への一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」と詠った歌人がいました。正月はめでたい時であると誰しもが思いがちですが、そうではない状況の人もいらっしゃいますのも事実です。

人生100年時代を迎え、長い老後の期間をいかに過ごすかが問われた昨年、老齢期2000万円の貯蓄が無ければ生きていけないような統計が出て国民は驚きました。それぞれ与えられた人生を精一杯生きることによって、幸せを感じる事が出来たらなんと幸いなことでしょう。

さて、イエス様が弟子達に別れを告げる決別説教の一部が冒頭の聖句です。神の子イエスが肉体をまとい世に現れ、生涯福音を伝えるため奔走されました。そして、いよいよ弟子たちと別れなければならない時がめぐってきたことが告げられます。その際、イエスの帰天が全てを無にしてしまうのではなく、主の復活によって全く新しいことが始まると伝えられました。そして、聖句は指し示す、イエスの受難も十字架も、栄光への啓示であり、イエスの天への帰還は、勝利の凱旋といえるものでした。そのイエスが語られる言葉は、何にもまして慰めと励ましに満ち、いかに苦難の状況でも平和を与えられ、勇気を出す事が出来るのです。

牧師 永松 清



祝会后クリスタルコールのメンバーと

2019年12月22日、今年もクリスマス礼拝・そして午後の祝会の日を迎えました。会堂の壇上には四本とも灯がともったろうそくでクリスマスを実感。永松先生のメッセージの後にはこの秋に練習を重ねてきた聖歌隊の賛美(①)が会堂を満たし、その後の聖餐式にも感謝でした。洋風の美味しい昼食をいただきつつ歓談。美味しかった!

さて午後1時15分からは祝会の始まり!

約60名が集われた会堂で、当日発熱のためビデオ出演となったY. Y. 君の開会宣言(②)からスタート。女性会の賛美(③)、お二人の姉妹によるバイオリン演奏(④)、M. 兄弟のピアノ演奏と讃美(⑤)、青年会による賛美等々…。今年の朗読降誕劇《ルカが語るクリスマス》が今年も理大合唱団クリスタルコールのメンバーを中心に演じられ、その演技に大きな拍手。その直後にクリスタルコールの合唱の時間には全員がその美しいハーモニーに感動!そして今年のサンタが鉄道的话题を口にしながらみんなにプレゼントを配ってくれましたが、JRの運転手OBであるOO兄弟にそっくりでした(笑)全員で『もろびとこぞりて』をさんびして素晴らしい時間の幕となりました。

その夜には恒例の鍋パーティーが行われ、クリスタルコールメンバーを含め20名ほどの出席で三種類の鍋で大満足。学生たちの即興コーラスも何曲も披露されて最高の夜でした。

また今年も教会学校の礼拝も大人と同時に進行する初めての取り組みでした。(高校生科は別メニュー)風邪など欠席が多く、少しさみしい礼拝でしたが、祝会には合流し教会の家族として共にお祝いしました。

ツリーの前で牧師先生と  
小学科+高校科



## ちいさきもののクリスマス

12月15日 奨励 土居 弘幸

私たちはイエス様の飼い葉桶の生誕シーンを美しく可愛らしいものとして受け止めてはいませんか。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからであると聖書は記しています。しかし、宿屋が満員だったからということが本当の理由だったのでしょうか。ある聖書学者は別の視点で、主の生誕を語ります。ユダヤの民はとて同族意識が強く、困難に直面している同族者には、あらん限りの支援を惜しまぬものであり、幾ら満員であっても身重の女性を外へ追い出すことはあり得ないと。即ち、ヨセフの故郷のベツレヘムには、マリアは姦淫の女であるとの噂が伝わっており、同族から罪人として拒否された結果、何処にも行き場がなく、たまたま目にした家畜小屋で出産の時を迎えたのだと。同族から、社会から拒否され孤立した最も“ちいさきもの”のところにイエス様はお生まれになりました。そして、救い主の誕生という、ユダヤ人には最も喜ばしく嬉しい知らせが、社会的に抑圧された最も“ちいさきもの(羊飼いたち)”にだけ知らされたのです。

ユダヤ人にとって“主”は、アブラハムの神であり、ダビテ王と共にいて守ってくださる存在でした。ところが、主なるイエス様は、いつも、ちいさきものに寄り添い、常にちいさきものと共におられる“主”であると聖書は語ります。これは人間の解釈ではなく、イエス様ご自身が証しされた真実です。

日常の歩みの中で、特に苦難の中で、私たちはイエス様を見失うことがあります。どう祈って良いかわからない、希望が見えない、そんな時こそイエス様に会いたい。トマスが触ったように、直接この眼ではっきりとイエス様を見たい。でも見えない…。そのような私たちに聖書は、イエス様の生誕をとおして、生涯をとおして、「イエス様は、いつも、常に、ちいさきものと共におられる」と語っています。イエス様が見えない、イエス様、助けて!と叫びたいとき、何処に行けばイエス様に会えるのでしょうか。それは、イエス様が、いつも、常に、おられるところです。ちいさきものところで、イエス様は、私たちに待ってられます。ちいさきものとは誰でしょうか。苦難の中にある私こそ、ちいさきものです。主よ、どうかお姿を見せてください、と私たちは思います。しかし、イエス様は、もう一つの道を示してくださっています。あなたが苦難の中にある時こそ、イエス様が共におられる“ちいさきもの”にとってあなたが必要な時なのです。聖霊はイエス様が共におられる“ちいさきもの”をあなたに示し、あなたがそこでイエス様と会うことができるよう導いてくださるのです。

## 24日 キャンドルサービス

24日(火)夜7時30分よりろうそくの灯火の下、静かでおごそかな礼拝をもちました。



今年はツリーを玄関にかざりました。道行く人に届きますように